

AMG リハビリテーション部広報誌

リハ通信

連携・信頼・進化の AMG リハ

リハビリテーション部 基本方針

1. お互いに高められる関係づくり
2. 新しい時代を創出する体制づくり
3. 地域包括マネジメントシステムの確立

ボンコツ部長の
たわ言...

2020/12 月号

AMG 協議会リハビリテーション部

部長 奥村 博文

最近、新型コロナの猛威がすごいです。予想はしていましたが、予想を超える勢いでございます。現場の医療従事者の方々も、日々、感染予防に大変なご尽力をされていることと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいでございます。



テレビでも、何日連続で陽性者が最多を更新しているなどと、毎日報道されています。

そんな中、テレビで著名人やコメンテーター、政治家などが自論を展開する報道が多くなってきています。

「命を守ることが大事。GOTO トラベルなんて言っている場合じゃない。」とか
「経済が大事。経済を動かさないと。」とか。
「国は、対応が遅い」「保障などが無ければ、外食産業や旅行産業は、踏ん張り切れない。」
「家に居ない国民にも責任がある。」「外出を自粛すれば状況は変わるのに。」
「外食産業も、今は感染予防に協力し、営業時間などを短縮すべきだ。」
「それは国の判断で・・・」
「それは都道府県の判断で・・・」
.....



私にとって、こういった自論は、聞いていて勉強になる話は、ほとんど無いように感じます。
誰かを責めているようにしか聞こえないし、責任を背負った提案をする方は、あまりいらっしゃらないように思うからです。
「何が大切な」「何を優先すべきか」などに答えてあるのでしょうか。あるなら、教えていただきたいものです。



日本は新型コロナ感染で亡くなる人は、少ない時で 20 名／月ほど、多い時で 70 名／月ほどです。
最終的に死因となった疾患が心不全や呼吸器疾患などで、新型コロナ感染が直接的原因としてデータに残されていない方もいらっしゃると思いますが、そういった方をすべて含めても 300 人／月以下であると思われます。

それと比較して、自殺が原因で亡くなる方は、今年の 10 月 1 か月で 2153 名です。「毎年、自殺する人は居るだろう」とおっしゃる方も多いと思うのですが、昨年の 10 月は 1539 名。今年は、昨年より（10 月 1 か月間で）614 人多いのです。あながち、コロナ禍の社会情勢と無関係とも言えないと思います。



だから、「経済を動かすことの方が大切」と言いたいわけではありません。爆発的に感染が広がって、医療崩壊が起これば、新型コロナで亡くなる人は、今の 3～5 倍、またはそれ以上になっても何ら不思議ではない状況です。

我々は、どんなに専門的な勉強をしても、徳を積んでも、（神様ではないので）未来を正確に知ることはできません。しかし、少しでもより良い未来を得るために、勉強し、徳を積むのだと思います。

知識を持っているからと言って、国、企業、特定の人を攻撃（口撃とでも言いましょうか）だけをする人が、私は好きではありません。

知識も技術も「良い未来」を得るために役立たなければ、何の意味もないのです。

特に知識は、相手を攻撃（口撃）するためではなく、

- 今後の行動指針を見つけられるようにするため。または、相手にそれを伝えるため。
- お互いの利益を守れるよう、未来を予測し、物事において「どこに妥協点をおくか判断する」ため。
- 知識を持った人が責任を負うことで、集団の統率をするため。

などに使ってほしいものです。

議論する人が、だれも責任を負わないような議論は、時間の無駄でしかないですものね。

私のようなポンコツでも、

- 発言に責任を持つこと。
- お互いの利益が守れるように、自分（たち）にできることを示した上で、具体的な妥協点について示すこと。

ぐらいは、怠らないようにしていきたいと考えています。

◆奥村部長ホットライン

TEL☎：048-775-6466 MAIL✉：hirohumi.okumura@amg.or.jp

お気軽にご相談下さい！



浅草病院リハビリテーション科ご紹介

就職活動中の学生の皆様

コロナウイルスの影響で、例年とは違うことが多く実習がなくなってしまった学校もあると思います。なかなか就職先を決められず迷っている方も多いのではないのでしょうか？私自身もなかなか決められず、何か所も見学に行きました。

そのような悩みを少しでも解消していただきたいと思い、これから浅草病院の魅力を紹介します。



「働くイメージが湧かないなあ!?」
 「ちゃんと働けるかなあ!?」
 「どうやって就職活動をしたらいいんだろう!?」
 「何を基準に就職先を選べば良いのだろう…」
 「実習もなかったから不安しかないよ。」

地域密着型の病院で、**1人の患者様に深く関わります!!**



発行元:浅草病院 リハビリテーション科

ホームページも是非ご覧ください! →→



横浜なみきリハビリテーション病院の小林奈槻 PT の研究論文が

国際誌に掲載されました！



新潟医療福祉大学(理学療法学科、神経生理 Lab、運動機能医科学研究所所属)の犬飼康人先生のご指導のもと、共同で研究した論文が国際誌「Journal of Clinical Neuroscience」に掲載されました。研究概要は以下の通りです。



犬飼康人先生

【研究概要】

バランス障害は高齢者の転倒を引き起こす危険因子であり、バランス障害を効果的に改善させる治療法の開発は、高齢者の転倒予防に貢献する可能性があります。

これまでに、バランス機能に関与する感覚システムの1つである前庭器官に対してノイズ様の電流刺激を加える「前庭ノイズ電流刺激」は、バランス機能を向上させることが明らかになっています。

しかしながら、これまでの研究では、安静立位といった安定した姿勢でのバランス機能にのみ着目していたため、前庭ノイズ電流刺激が安静立位以外のバランス機能に与える影響は明らかになっていませんでした。

そこで、本研究では、前庭ノイズ電流刺激が片足立ち時のバランス機能に与える影響を検証しました。

その結果、前庭ノイズ電流刺激は、片足立ち時のバランス機能を即時的に向上させることが明らかになりました。

さらに、前庭ノイズ電流刺激の片足立ちの安定性を向上させる刺激効果は、刺激強度により異なることが明らかになりました。

本研究結果から、適切な刺激強度で前庭ノイズ電流刺激を行うことにより、即時的に片足立ちの安定性を向上させることができる可能性が示唆されました。

【小林奈槻 PT からのコメント】

私たちは、耳介の後方にある乳様突起に貼付した刺激電極からノイズ電流を付加する「前庭ノイズ電流刺激」は、若年者ならびに高齢者のバランス機能を向上させることを明らかにしました。(Inukai et al., 2018a, 2018b, 2020a, 2020b)。しかしながら、これまでの研究では安静立位でのバランス機能にのみ着目していたため、前庭ノイズ電流刺激が他のバランス機能に与える影響については明らかにされていませんでした。

本研究では、適切な刺激強度で前庭ノイズ電流刺激を行うと、即時的に片足立ちのバランスが向上することが明らかになりました。本研究結果から、前庭ノイズ電流刺激は、安静立位だけでなく片足立ちのような不安定な姿勢でのバランス機能の向上にも有効であることが示唆されました。



キャリア支援委員会 2020 年度ロールモデル紹介 第 1 弾！

（ロールモデルさんのご紹介）

氏名：森 亮介 年齢：27 歳 性別：男性
経験年数：5 年目 勤務地：総合病院 領域：回復期



【自身のキャリアビジョンについて】

私は入職時から運動器疾患に対するリハビリの関心が高く積極的に勉強をしてきました。そのため、今後も運動器疾患に関する知識・技術を高めていきたいと考えていますが、一方で、働きやすさを考える上で管理・運營業務にも興味があり、主任・管理職に対する憧れもあります。

昨年キャリアビジョンシートを作成した際には、自分が責任感を問われる仕事に対してやりがいを感じていることがわかり、運動器疾患についての知識・技術を高めていくことと、その能力を生かしながら、役職者として組織の管理・運営に携わっていくというキャリアビジョンを描いていました。



【自身のキャリアの悩みについて】

昨年はキャリアビジョンを実現していく上で、認定理学療法士（運動器）を取得するべきか否か悩んでいました。

【なぜ悩んでいたか？】

先輩の中には様々な資格を取得している方々があり、なんとなく自分も資格を取得した方がいいのかと考えることがありました。運動器に関わる資格としてイメージしやすかったのが認定理学療法士でしたが、取得



のためには PT 協会で指定された研修会への参加・症例報告などがあるようだったので、なんとなく負担が大きいと感じていました。また、悩んでいた当時は協会に入会しているメリットをあまり感じず、休会している状態でした。

そして、そもそもキャリアビジョンを実現するためには、資格を取得しなくても自分で勉強すればいいのではないかと。資格所得によるメリットはあるのかなあと考えていました。

【悩みの解決に向けてどんなことをしたか？】

キャリア面談をきっかけに、資格を取得することで相手に認めてもらえやすくなったり、仕事を任されるチャンスが増えるかもしれないという考え方に気がつき、改めて制度について調べてみました。すると、資格取得のために受講する研修内容自体が、興味深く自分にとって成長のきっかけになりそうだと感じ、それまではあまりわからなかった資格取得によるメリットが理解できました。また、研修方法も e ラーニング化により以前に比べ受けやすくなっていることに気が付けました。

そして当院のリハビリ科には運動器の認定理学療法士を取得している方はいないため、将来自分が資格を取得した上で管理・運営に携われれば活躍の場が広がるかもしれない。と資格取得に対して前向きにとらえることができました。



【現在の状況】

認定理学療法士(運動器)所得に向けてまずは生涯学習ポイントの獲得を進めています。また、ラダーのクラス3終了に向けて上半期で未到達であった項目をクリアできるよう目標を立てて日々取り組んでいます。

【キャリアコンサルタントからの一言】

資格を取得「しなくても」から、資格を取得「することで」というように見方を変えることで、前向きな行動変容があったようですね。このように物事を違った角度・視点から考えてみることを「リフレーミング」と言います。

悩んだときに一歩踏み出すきっかけになるかもしれませんので、皆さんもぜひ参考にしてみてくださいと思います。

**【編集・発行】**

上尾中央医科グループ協議会 リハビリテーション部 <https://amg.or.jp/rehabilitation/>

〒362-0075 埼玉県上尾市柏座 1-10-3-58 TEL：048-775-6466 FAX：048-775-0570